



処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
膵消化酵素補充剤

リパクレオン® 顆粒300mg分包装
カプセル150mg

〈パングレリパーゼ製剤〉 **Lipacreon**®

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 **Abbott** アボット ジャパン株式会社
東京都港区三田3-6-27

販売元 **Eisai** エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

製品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン
フリーダイヤル 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

LPC1209C02



[検体検査実施料収載]
日本標準商品分類番号 877449
体外診断用医薬品承認番号
20900AMZ00083000

肝細胞癌の
診断補助に用いる…

PIVKA-IIキット
血中PIVKA-II測定用医薬品 体外診断用医薬品

ピコルミ PIVKA-II
〈電気化学発光免疫測定法〉

●使用目的、操作上の注意、使用上又は取扱い上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 **エーディア株式会社**
東京都千代田区岩本町1-10-6

販売提携 **Eisai** エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先：エーディア株式会社 商品情報係 ☎03-3863-3271 / エーザイ株式会社 お客様ホットライン ☎0120-419-497

PVKA1104C03

第14回臨床消化器病研究会「開催のお知らせ」
肝胆膵の部 症例募集のお知らせ

肝胆膵の部 [3セッション]

■8:50～10:40

主題1 肝：「肝嚢胞性病変」

司会：熊田 卓先生(大垣市民病院 消化器内科)
廣橋 伸治先生(大阪暁明館病院 放射線科)
病理コメンター：坂元 亨宇先生(慶應義塾大学医学部 病理学)
画像コメンター：蒲田 敏文先生(金沢大学 放射線科)

■10:50～12:40

主題2 胆：「胆嚢壁肥厚性病変の鑑別診断—10年間の進歩を検証する—」

司会：花田 敬士先生(尾道総合病院 内視鏡センター)
佐野 圭二先生(帝京大学医学部 外科学講座)
病理コメンター：柳澤 昭夫先生(京都府立医科大学 人体病理学)
画像コメンター：吉満 研吾先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)

■13:55～15:45

主題3 膵：「非典型的な画像所見を呈した膵管癌」

司会：糸井 隆夫先生(東京医科大学 消化器内科)
渡邊 五朗先生(虎の門病院 消化器外科)
病理コメンター：福嶋 敬宜先生(自治医科大学附属病院 病理診断部)
画像コメンター：角谷 眞澄先生(信州大学医学部 画像医学講座)

消化管の部 [3セッション]

■8:50～10:40

主題1 食道：「びらん・潰瘍を呈する食道病変」

司会：小山 恒男先生(佐久総合病院 胃腸科)
門馬 久美子先生(がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科)
病理指導：大倉 康男先生(杏林大学医学部 病理学教室)

■10:50～12:40

主題2 胃：「胃底腺領域の陥凹性病変」

司会：飯石 浩康先生(大阪府立成人病センター 消化管内科)
後藤田 卓志先生(東京医科大学 消化器内科)
病理指導：岩下 明德先生(福岡大学筑紫病院 病理部)

■13:55～15:45

主題3 小腸：「びらん・潰瘍を呈する小腸病変」

司会：松本 主之先生(九州大学大学院 病態機能内科学)
山本 博徳先生(自治医科大学附属病院 消化器センター)
病理指導：味岡 洋一先生(新潟大学大学院 分子・診断病理学)

2013年7月20日(土) 8:45～15:55(予定)

グランドプリンスホテル新高輪
「国際館パミール」3階「北辰・崑崙」

〒108-8612 東京都港区高輪3-13-1 TEL 03-3442-1111 FAX 03-3444-1234

参加資格 オープン 会場費 3,000円

共催：臨床消化器病研究会

〈事務局〉「消化管の部」福岡大学筑紫病院 消化器内科
「肝胆膵の部」手稲溪仁会病院 消化器病センター

エーザイ株式会社(担当：医薬マーケティング部 消化器領域室)

臨床消化器病研究会HP <http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>

第14回臨床消化器病研究会 「肝胆膵の部・演題募集」について

肝胆膵の部では、各主題で検討する症例を公募いたします。

肝胆膵の部 主題症例募集

「主題のねらい」に即した症例があれば、「症例申込票」・「画像・病理データ」をCDに保存のうえ、事務局宛にお送りください。

※「症例申込票」は、エーザイ株式会社担当者または、臨床消化器病研究会 HP(<http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>)より入手願います。

締め切り: 2013年5月17日(金)

送付先: 臨床消化器病研究会(肝胆膵)事務局
手稲溪仁会病院 消化器病センター 丸岡 河南子 宛
〒006-8555 北海道札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
TEL: 011-681-8111(内2050) FAX: 011-685-2967
e-mail: tkgc@tb3.so-net.ne.jp

本研究会では、各セッションの様態をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

注意事項

1)「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込票」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 応募する「領域」「主題」
- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨(400文字以内)
- 症例申込票とともに送りいただく資料の種類、枚数(資料別)

2)「画像・病理データ」

※Powerpointで作成し、以下の画像・病理データをご提出願います。

- 画像所見(X線所見、内視鏡所見など)
- 切除標本所見(マクロ)
- 病理組織所見(ミクロ)
- その他、症例検討に必要な資料

※病理標本現物(プレパラート)は、送付しないでください。

3)「症例申込票」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、提出願います。

主題 1 肝: 「肝嚢胞性病変」

司 会: 熊田 卓先生(大垣市民病院 消化器内科)
廣橋 伸治先生(大阪暁明館病院 放射線科)

病理コメンテーター: 坂元 亨宇先生(慶應義塾大学医学部 病理学)
画像コメンテーター: 蒲田 敏文先生(金沢大学 放射線科)

肝臓の画像診断においては嚢胞性腫瘤に高頻度に遭遇する。多くは単純性嚢胞であるが、単純性嚢胞の診断基準に合致しないものには、単に出血や感染を合併した複雑性嚢胞の他に、寄生虫性嚢胞や過誤腫的嚢胞および腫瘍性嚢胞が含まれており、注意が必要である。さらに、腫瘍性嚢胞の中には過去に本研究会で取り上げられた粘液性嚢胞腫瘍や嚢胞性腫瘍の肝転移などのいわゆる嚢胞性腫瘍のみでなく、神経内分泌腫瘍などの充実性腫瘍の嚢胞変性や肝内胆管から発生した胆管内腫瘍により拡張した胆管が嚢胞状に見えるものなどまで様々な病態が含まれると考えられる。

本セッションでは、画像所見が明瞭であり、手術あるいは生検などで確定診断の得られた種々の肝嚢胞性腫瘤の症例を呈示して戴きたい。出来るだけ多数の症例を検討し、肝嚢胞性腫瘤の鑑別診断について考えるため、多数の応募を期待したい。

主題 2 胆: 「胆嚢壁肥厚性病変の鑑別診断—10年間の進歩を検証する—」

司 会: 花田 敬士先生(尾道総合病院 内視鏡センター)
佐野 圭二先生(帝京大学医学部 外科学講座)

病理コメンテーター: 柳澤 昭夫先生(京都府立医科大学 人体病理学)
画像コメンテーター: 吉満 研吾先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)

胆嚢壁肥厚性病変は良性・悪性の多彩な疾患で認められる病態である。良性疾患では、慢性胆嚢炎、黄色肉芽腫性胆嚢炎、胆嚢腺筋腫症、膵胆管合流異常による胆嚢粘膜過形成などが挙げられるが、良悪性の鑑別診断に困難な場合がある。近年、この病態における鑑別診断に関して、造影MRI、造影超音波内視鏡(EUS)、内視鏡的経鼻胆嚢ドレナージ(ENGBD)を用いた胆汁細胞診、EUSガイド下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)の成績などが報告されている。このテーマは10年前の本研究会でも取り上げられているが、当時と比較してどこまで診断成績が進歩したかを検証しつつ討論を行いたい。多数の演題応募を期待する。

主題 3 膵: 「非典型的な画像所見を呈した膵管癌」

司 会: 糸井 隆夫先生(東京医科大学 消化器内科)
渡邊 五朗先生(虎の門病院 消化器外科)

病理コメンテーター: 福嶋 敬宜先生(自治医科大学附属病院 病理診断部)
画像コメンテーター: 角谷 眞澄先生(信州大学医学部 画像医学講座)

膵管癌は日常臨床でしばしば遭遇する悪性膵疾患である。その多くは膵内に不整な充実性腫瘤と尾側の膵管拡張を呈し、造影画像ではいわゆる“乏血性”所見を有するため、ある程度の典型像は想定されているが、実際の診断においては容易でないことしばしばあり、さらに小病変についての知識は十分とは言えない。また、NETなど他腫瘍や炎症との鑑別診断の課題も残されている。そこで本セッションでは「非典型的な膵管癌」の画像にフォーカスを当て、そのスペクトラム、臨床・病理上の特徴を明らかにしたい。多数の演題応募を期待する。